

## 自主調査研究報告 [継続報告]

## クルーズ客船需要に対応する観光連携に関する調査研究(継1B-1-④)

大分類	継1B
中分類	継1B-1

## 1. 目的

我が国の高齢化成熟化にともないクルーズ客船への需要が増えているほか、国際的にもこれまでの北米、欧州地域のクルーズ需要に加えアジア全域での大幅な需要の増加が見込まれている。現在我が国では観光推進のための様々な施策が打ち出され、この中でクルーズ客船対応についてもあげられているが、北海道においても各地域でクルーズ協議会等の結成や道央での連携について模索されているなど様々な取組が進められている。

また、クルーズ客船の寄港は、背後地域への経済波及効果も非常に大きく、地域経済の活性化という点で道内港湾への寄港増加が望まれている。一方、国内港湾間でのクルーズ客船の誘致活動が活発化しており、北海道の港湾においても戦略的に取組んでいくことが必要である。

本調査研究では、北海道各地域特有の課題の抽出と新たな観光資源メニューの発掘を行い、広域での各市町・官民連携を念頭に魅力あるメニューの提案を行うなど、北海道クルーズ推進のための試案を提示することを目的とする。

## 2. 実施内容

平成28年度は、北海道におけるクルーズ客船の寄港状況等を把握するため、北海道クルーズ振興協議会HPやクルーズ船社パンフレット等より資料収集を行った。また北海道の観光資源の把握のために、道内179市町村の観光資源調査を行うとともに、オプションツアーの実施状況について平成26年から平成28年の期間

において2年間クルーズ客船の寄港実績がある道内港湾管理者へのアンケート調査を実施した。さらに、クルーズ客船受入時の活動状況についておもてなし活動を行っているみなとまちづくり女性ネットワークと意見交換を行った。

## 3. 主要な結論

## (1) 北海道におけるクルーズ客船寄港実績

北海道へのクルーズ客船の寄港実績について調査したところ、平成19年から平成28年までの10年間ににおける北海道への寄港は、23港において延べ752回であることが分かった。寄港実績の推移をみると、10年間継続して寄港がある港湾は7港であった(図1)。

## (2) 観光資源調査

北海道の各市町村ホームページより、「自然景観」「文化・文化体験」「名産品」「食」「イベント」「施設(博物館等)」に分類して抽出し、全道各港湾(地方港湾含む)の背後地域にある観光資源を港湾毎に集計した。背後地域は港湾のある市町から車両で2時間圏内の範囲としており、小樽港と石狩湾新港では53市町村にも及ぶことがわかった。

## (3) 港湾管理者へのアンケート

函館港他8港を対象に、実施したオプションツアーやクルーズ客船係留場所等についてアンケート調査を行った。

得られた回答によると、オプションツアー時間の平均時間は約5.5時間で、最も長いツアーで約10時間であった。観光先の市町村を集

計すると、1市町村内のみでツアーを組んでいるケースが多く、複数の市町村に渡るツアーでも3市町村が最大であった。

#### (4) クルーズ客船受入時の活動状況

女性ネットワークとの意見交換では、函館港におけるいか踊りでの歓迎、室蘭港における国際信号旗での歓迎等、各港の特徴的な「おもてなし」内容を確認できた。一方でクルーズ客船が停泊する岸壁と市街地が遠く、市民参加が難しいといった課題があげられた。

## 4. 今後の対応

平成28年度の調査を基に、北海道地域でクルーズツアー客に提供できるメニューを抽出・整理した上で道内各港湾におけるクルーズ客船の寄港可能性及び広域連携の可能性を整理する。

また、広域連携や観光メニューについて具体的な検討を行うための体制を構築することを目標とする。

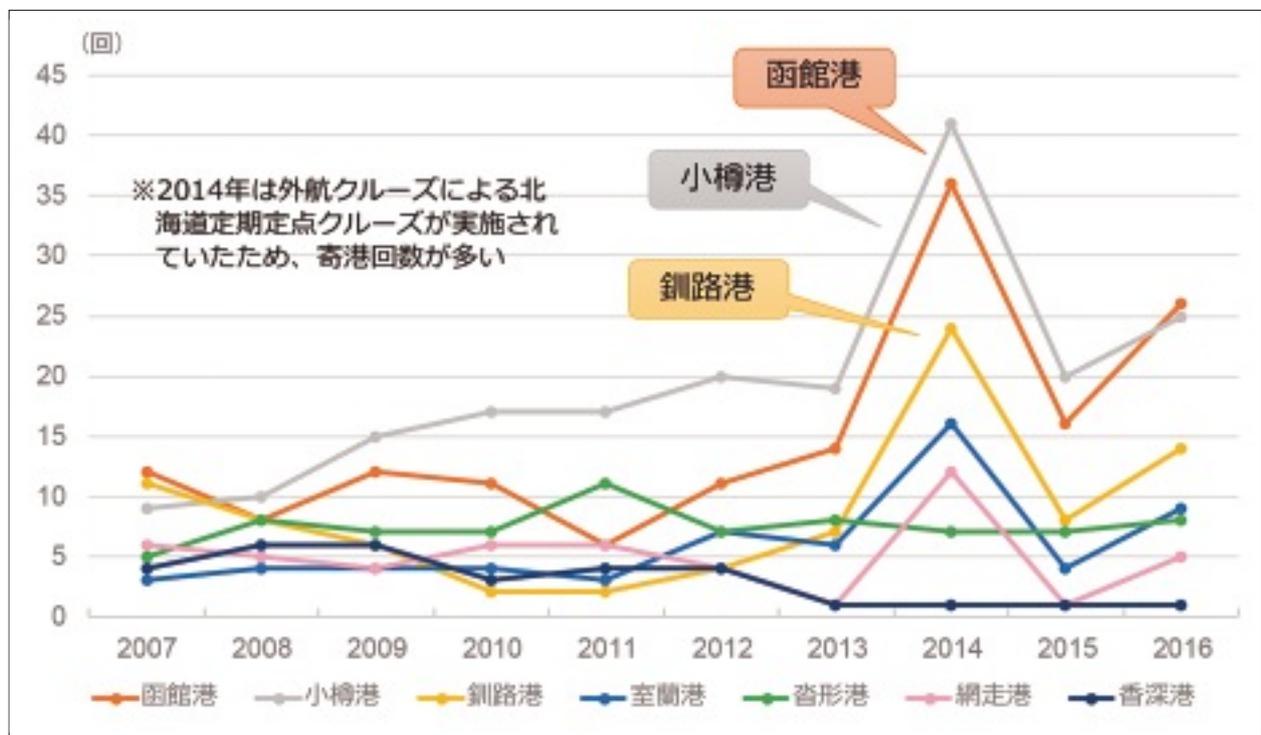


図1 北海道の主要7港におけるクルーズ客船寄港回数の推移  
(北海道クルーズ振興協議会 HP クルーズ客船寄港情報データより作成)